

- 理事長挨拶
- 大会案内
- 各支部報告

理事長挨拶

第3代理事長 新川達郎 (同志社大学)

2014年11月の政治社会学会理事会において第3代理事長に選任いただきました。会員の皆様方に改めましてごあいさつを申し上げます。政治社会学会は、これまでの社会科学の在り方だけではなくさらに幅広く学問体系それ自体への問題提起を含めて、新たな「知」の在り方を探求するべく、会員の皆様方の熱く高い志を起点として活動してきました。そうした志を受け継ぎ、さらに本学会を大きく発展させていくことが、理事長に選任いただいた私の使命だと考えています。

本学会の研究活動は、2010年に設立以来、これまで短い期間ではありますが歴代理事長をはじめ役員の皆様方のご尽力で充実したものになってきました。毎年の研究大会や、関東および関西での政治社会学会の活動などは、いずれも大変活発であり、充実した内容となってきました。これまで、私たちの学会は、その基本的な活動方針として、政治社会の諸現象に関して、グローバルとローカルの深いかかわりを意識するとともに、また人文社会科学と自然科学の垣根を越えた視点を持って、社会デザインに新たな展望を、学問的にも実践的にも開くべく、熱意あふれる接近を試みてきました。

もちろん私たちは、政治社会学会としての研究を基盤として、これからの社会を考えることに基本的な目的をおいているのでありますが、その際に特に重視したいのは、未来に理想を実現するべく社会デザインの改革や刷

新を目指すことであり、そうした営みを研究の場を通じて実現しようとするところに、私たちの大きな特徴があります。そのための学際科学的な接近や文理融合の試みですし、実証や経験知を大切にしながらグローバルとローカルを結ぶ視座の提示だったと考えています。これからも、従来の学問研究の枠組みを超えた営みを、未来へのまなざしを基本として、革新的な社会デザインに向けて会員の皆様とともに紡ぎ続けていきたいと思っております。

理事長としての2年間の任期期間中にどこまで学会としての理想を実現できるか心もとないところも多々ありますが、会員各位のお力を合わせていただき、これからの任期を全うしたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

2014年11月

政治社会学会 第3代理事長 新川達郎
(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)

政治社会学会（ASPOS）第6回研究大会と総会予定

政治社会学会(ASPOS)第6回研究大会が、2015年11月14日(土)-15日(日)に広島大学平和科学研究センターにて開催されます。この大会の発表者公募に関する情報ならびに、プログラム(予定)をお知らせいたします。若手研究者の公募も歓迎いたしますので、奮ってご応募ください。

政治社会学会 2015年度企画委員長 佐藤洋一郎

日時 : 11月14日10:00~11月15日15:00

場所 : 広島大学平和科学研究センター

〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/index.html>

【プログラム】

大会一日目(11月14日)

開会

1. 若手セッション (10:00-12:00) セッション責任者 新川達郎先生

2. 基調講演とパネルディスカッション (13:00-15:00)

広島大学平和科学研究センター西田恒夫センター長 (講演時間 45分位)

3. 食の未来を考える (15:15-17:15) セッション責任者 佐藤洋一郎先生

趣旨:「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、食に対する社会の関心が高まっている。いっぽう現代日本人の食は膨大なエネルギー消費に支えられた脆弱なものになりつつあり、懸念の声も強い。食の全・安心も、一向に担保されない。このシンポジウムでは、消費者を含む食に関する多様な当事者の参加を得て「これからの食のあり方」を考えるよすがとする。

総会 (17:15-17:45)

懇親会

※昼休みを使いポスターセッション も行います。

大会二日目(11月15日)

4. 東アジアにおけるエネルギー転換と社会変革-「ソフト・エネルギー・パス」の可能性- (10:00-12:00)

セッション責任者 尾形清一先生

5. リベラルアーツの復権と文理融合:大学の総合研究教育の取り組みとその課題(13:00-15:00)

セッション責任者 荒木義修先生

閉会 新川達郎先生

報告者応募要綱

公募セッションは、プログラム1, 3, 4, 5ならびにポスターセッションです。発表希望者は7月31日までに以下の項目内容をセッション責任者ならびに事務局中村知子宛てにお送り下さい。沢山の方のご応募、おまちしております。

応募内容

報告希望セッション

発表者名・所属（日本語、英語）

発表者タイトル（日本語、英語）

簡単な要旨（300-400字）

※書式は問いません。メール本文への記載でもかまいません。

応募先 （ccで中村知子fwjh1030@nifty.comにもあわせてお送りください）

セッション1 新川 達郎 tniikawa@mail.doshisha.ac.jp

セッション3 佐藤 洋一郎 sato@chikyu.ac.jp

セッション4 尾形 清一 ogata@econ.kyoto-u.ac.jp

セッション5 荒木 義修 yuzumikan0202@nifty.com

ポスターセッション 佐藤 洋一郎 sato@chikyu.ac.jp

なお、公募結果は8月上旬にメールにてご連絡いたします。

報告者の方は、9月末までにA4、1ページ程度（1200字前後）の内容要旨を事務局中村知子（fwjh1030@nifty.com）ならびにセッション責任者宛にお送り下さい。

第4回ASPOS/KAPS日韓ジョイント・カンファレンス

2015年11月9日韓国にて、「第4回ASPOS/KAPS日韓ジョイント・カンファレンス」の開催を予定しております。

次回のNewsletterNo6で、開催予定地、及び、発表募集要項をご連絡致します。

次回理事会について

次回理事会は、2015年8月1日、13時から14時まで同志社大学今出川キャンパス志高館にて行う予定です。詳細はメールにてご連絡いたします。

政治社会学会事務局

関東政治社会学会

関東政治社会学会第15回研究会が、6月13日に開催されました。

日時: 2015年6月13日(土) 14:00~17:15

場所: 専修大学神田キャンパス7号館8階783教室

内容: テーマ 文理融合へのチャレンジ

«セッションⅠ» 14:00~15:30

「水文学と社会科学」

モデレータ: 荒木義修(武蔵野大学教授)

報告1: 中尾正義(総合地球環境学研究所・名誉教授)

「文理融合を含む総合的研究の推進」

報告2: 仲上健一(立命館大学特任教授・東京大学客員教授) 「水文学のパラダイムとサステナビリティ」

«セッションⅡ» 15:45~17:15

「“森里川海”連携の思想と実践」

モデレータ: 原田博夫(専修大学教授)

報告: 田中克(京都大学名誉教授、NPO法人森は海の恋人・理事) 「森里川海連携学の思想」

報告: 吉澤保幸(場所文化フォーラム・代表幹事)

「森川海連携と新たなまつりごと」

報告: 梅田晶子(乃村工藝社)

「「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトに関する考察-多様な方々に広く参加していただくために-」

討論: 近江吉明(専修大学教授)「アナーカル学派の観点から」



(2015年6月13日 関東政治社会学会研究会)

当日は、研究者だけでなくNPOの方々など、様々な分野で活躍する方が20名近く参加されました。セッションⅠ、セッションⅡ共にグループディスカッションを行い、セッション内容を発展させた活発な議論が展開されました。学際的であるだけでなく職種を越えた議論が行われた、当学会らしい研究会となりました。

原田博夫

関東政治社会学会会長 (専修大学)

関西政治社会学会

2015年度関西政治社会学会活動報告

(1月から5月まで)

2015年3月31日に同志社大学志高館で関西政治社会学会第1回研究会が開催された。研究会は二部で構成され、第一部の「若手研究発表」では小田切康彦先生(徳島大学)「市民参加の民主性と効率性-京都市を例として-」、尾形清一(京都大学)先生の「再生可能工

エネルギー事業における PIMBY/NIMBY の構造-風車騒音問題の事例-」、村上沙保里(同志社大学)さんの「一般教養科目における文理融合教育の実証研究-同志社大学政策部における協働講座を事例に-」が報告された。その後、グループディスカッションが行われた。第二部の「関西政治社会学会企画研究」では、三石博行(元千里金蘭大学教授)「設計科学論から展開できる民主主義社会での政策の課題に関する考察」、嘉田良平(四条畷学園大学)先生「拡大するイスラム市場とハラール対応の課題」、花森久仁子(東海大学)先生「科学分析による食品偽装抑止の可能性」が報告され、その後、グループディスカッションが行われた。

関西政治社会学会第 2 回研究会は、2015 年 3 月 8 日、同志社大学志高館で開催された。この研究会は二つのプログラムで構成された。教育問題を課題にしたプログラム 1 では荒木義修(武蔵野大学)先生「"いじめ"と臨床心理学、遺伝子-『日本再生と青年のやる気意識についての調査』結果から-」の報告を受け、その後、グループディスカッションを行った。二つ目のプログラム・「文理融合を考える円卓会議」で三石博行(元千里大学教授)「今再び、文理融合型政策の意味を問う-政策方法としての文理融合か政策の内容としての文理融合か」の報告を受けて、グループディスカッションが行われた。

関西政治社会学会では 2 か月 1 回の定例研究会開催を目標にしているが、5 月末までに 2 回の研究会を開催し、そして第三回研究会は 8 月 1 日を予定している。

今後の研究会の予定

関西政治社会学会 2015 年第 3 回研究会

日時：8 月 1 日 14 時から 17 時まで

場所：同志社大学今出川キャンパス志高館

※懇親会 18 時から

※なお、同日 13 時から 14 時まで同志社大学今出川キャンパス志高館にて理事会開催の予定です。

三石博行

関西政治社会学会会長(メディアエコ研究開発)

※なお今回は九州政治社会学会からの報告はありませんのでご了承ください。

会費納入のお願い

日頃より、当学会の運営に対しまして、ご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。当学会の活動は会員の皆様方の会費と寄付に支えられております。当会の活動も漸く軌道に乗って参りましたものの、今後、活動をさらに強化していくために、会費の納入をお願い申し上げます。既に納入済みの際にはご容赦ください。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

なお、領収証は、夏期休暇前に郵送いたします。原則として、入会申込書記載の所属機関宛とさせていただきますが、他住所への郵送を御希望の際は、その旨お知らせ下さい。また、納入の際にはお名前のみのお入力にてお願い申し上げます。なお、会費納入状況につき不明の方は、imamura@waseda.jp までお問い合わせ下さい。

【振込み先】 三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店

普通 0126184

政治社会学会事務局 今村浩

(セイジシャカイガツカイジムキョクチョウ イマムラヒロシ)

政治社会学会事務局

秋山知宏会員

- 竹村牧男, 中川光弘[監修] 岩崎大, 関陽子, 増田敬祐[編著]『自然といのちの尊さについて考える : エコ・フィロソフィとサステナビリティ学の展開』ノンブル社、2015年3月。(分担執筆)

荒木義修会員

- 荒木義修「プログラム(設計) 科学、文理融合、進化的アプローチ(試論)」(武蔵野大学政治経済研究所年報第9号、2014年7月)。
- 荒木義修「企業内研修プログラム『心のアドベンチャー(Adventures In Attitudes)』は、投票参加とやる気を喚起し、抑うつ・自殺志向・いじめを防止できるか?」(武蔵野大学法学会編『武蔵野法学』第1号、2014年12月)。

原田博夫会員

- 専修大学社会知性開発研究センター/社会関係資本研究センター(研究代表・原田博夫) 『社会関係資本研究センター年報』第5号、2014年2月。(The Center for Social Capital Studies, Senshu University, chaired by Professor Hiroo Harada. *Annual Report of the Center for Social Studies*, No.5, February 2014. <in Japanese>)
- 専修大学社会知性開発研究センター/社会関係資本研究センター(研究代表・原田博夫) 『社会関係資本研究論集』第5号、2014年2月。(The Center for Social Capital Studies, Senshu University, chaired by Professor Hiroo Harada. *The Journal of Social Capital Studies*, No.5, February 2014.)
- The Center for Social Capital Studies, Senshu University, chaired by Professor Hiroo Harada. *The Senshu Social Capital Review*, No.5, February 2014.

- 専修大学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター(研究代表・原田博夫) 『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』第1号、2015年3月(The Center for Social Well-being Studies, Senshu university, chaired by Professor Hiroo Harada. *The Journal of Social Well-being Studies*, No.1, March 2015. <in Japanese>.)
- The Center for Social Well-being Studies, Senshu university, chaired by Professor Hiroo Harada. *The Senshu Social Well-being Review*, No.1, March 2015.

平田恵子会員

- Hirata, Keiko and Mark Warschauer. 2014. *Japan: The Paradox of Harmony*. New Haven and London: Yale University Press.

今村浩会員

- 吉野孝他[編]『オバマ後のアメリカ政治』東信堂、2014年3月。(分担執筆)

切東美子会員

- 切東美子『「なぜ医師不足が起こったか?」—医師における人的資源管理論—』サンケイ新聞生活情報センター、2015年4月。

小峰隆夫会員

- 小峰隆夫『日本経済に明日はあるのか』日本評論社、2015年4月。

森壮一会員

- 日本環境教育学会[編]『環境教育とESD』(日本の環境教育 / 日本環境教育学会編, 第2集) 東洋館出版社、2014年9月。(分担執筆)
- 森 壮一『科学コミュニティとステークホルダーの関係性を考える』第一報告書「文理連携による統合研究に関する調査研究(自然科学と人文社会科学の

学際的協働について) No.105-1 文部科学省 科学技術・学術政策研究所ディスカッション・ペーパー シリーズ No.105、2014年3月。

- 森 壮一『科学コミュニティとステークホルダーの関係性を考える』第二報告書「トランスディシプリナリティに関する調査研究(科学者とステークホルダーの超学際協働について)」No.105-2 文部科学省 科学技術・学術政策研究所ディスカッション・ペーパー シリーズ No.105、2014年3月。
- 森 壮一『科学コミュニティとステークホルダーの関係性を考える』第三報告書「フューチャー・アースに関する調査研究(ステークホルダーとの協働による統合研究計画について)」No.105.3 文部科学省 科学技術・学術政策研究所ディスカッション・ペーパー シリーズ No.105、2014年3月。

中村知子会員

- 大塚健司編 『アジアの生態危機と持続可能性：フィールドからのサステナビリティ論』(研究双書 / アジア経済研究所 [編], no. 616) 日本貿易振興機構アジア経済研究所、2015年3月。(分担執筆)

編集委員会委員長 三石博行
ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]
No. 4 (2015年6月28日発行)
発行人: 新川達郎 (理事長)
編集人: 三石博行 (広報委員長)
E-mail: hiro.mitsuishi@gmail.com

編集後記

今年度の政治社会学会の研究大会や総会の日程や企画に関する報告、更に第4回 ASPOS/KAPS 日韓ジョイントカンファレンスの開催日程の報告を皆様にお届けするための Newsletter の発行が大変遅れました。皆様にご迷惑をお掛けしました。

会員や多くの人々に当学会の行事予定等の情報を出来るだけ事前に、そして詳しくお届けすることが広報活動の在るべき姿です。つまり、会員を含め多くの参加者が、学会の行事を自らの研究日程に組み込み、活発に企画して頂くための支援をすることが、この広報の目的なのです。しかし、こうした広報活動は、この学会の運営の現実を直接反映しています。組織的で機能的な学会運営が行われることによって、広報活動は正常に機能することになります。

2010年に本学会が結成され、2012年に本学会誌『政治社会論叢』が発行され、さらに学会結成当時から行われていた日韓ジョイントカンファレンスが2012年から正式に ASPOS/KAPS 日韓ジョイントカンファレンスとして始まり、関東政治社会学会、関西政治社会学会や九州政治社会学会の支部活動が盛んになり、本学会は着実に発展してきました。広報委員会はこれらの活発な学会活動を、会員にそして社会に伝える活動をより精力的に行うため、編集委員会を組織的・機能的に運営し、Newsletter を定期的に発行しなければなりません。加えて、今回のニュースレターにも会員に研究成果・会員による著作出版を記載することが出来ました。これからも、出来るだけ多くの会員の研究成果が記載出来るように努力しなければなりません。

最後に、今回のニュースレターの発行に際し、全ての実務的作業を担われました中村知子先生に深謝いたします。

編集委員会委員長 三石博行